

# 浄泉寺報

第19号  
2019年  
報恩講



昨年の報恩講『御伝鈔』拝読の様子

如来大悲の恩徳は  
身を粉にしても報ずべし  
師主知識の恩徳も  
ほねをくだきても謝すべし

『恩徳讃』

## 「報恩講」に寄せて

浄泉寺住職 望月廣三

あなたにとって、人生の「恩」  
ってなんですか？こう問われたら、どう答えるでしょうか。たい  
ていの人はどう答えたらいいか  
と、はたと返事に窮するのではな  
いでしょうか。それほど「恩」と  
いうものは大きく、深い概念だと  
いうことですね。

今年も浄泉寺の「報恩講」がつ  
とまります。「恩に報いる集い」。  
この「恩」はまさに人生にたいす  
る恩のことです。宗祖である親鸞  
聖人がわたし達に、人生の恩とは  
こういうものですよ、と教示くだ  
さっているのです。それを忘れさ  
せないために、毎年この法要が営  
まれるのです。

それではいつたい、その「恩」  
とは何か、です。それを一口で申  
しますと、わたし達人間を苦しめ

ている「執」(こだわること。と  
らわれること)からの解放です。  
なぜこんなに苦しむのか、なぜこ  
んなに悩まねばならないのか、そ  
の根本原因が「執」なのです。仏  
教で「救い」とか「悟り」とか言  
われる境地は、この「執」からの  
解放にほかありません。

では、どうしたら解放されるか。  
それは、とことんまで悩み苦し  
んで気付かされる境地ですが、それ  
がそうだったのだ、とうなずける  
には仏教の教えを「聞く」しかあ  
りません。納得が行くまで徹底的  
に聞くのです。そのほかに、安楽  
になれる道はないのです。



報恩講の「表白」を読み上げる住職

## 浄泉寺からのお知らせ

### ● 春のお彼岸 ●

お参りの日程は、三月上旬にお葉  
書でお知らせします。

浄泉寺本堂で勤まる彼岸会にもぜ  
ひお参りください。

### ● 同朋会 ●

浄泉寺では、毎月同朋会を開催し  
ています。住職による法話の後、  
皆さんでお茶を飲みながら語り合  
います。

新年の一月は、修正会とあわせて、  
ご門徒のみなさんとの新年会を開  
催します。鍋を囲んでのお齋やピ  
ンゴゲームも予定しています。

どなたでもお気軽にご参加いた  
けますので、お誘い合わせぜひお  
参りください。

今後の詳細な日程等の問合せは、  
浄泉寺まで。

「若坊守のひとりごと」

私達は心に「正しさの石つづて」を持っていて、そしてその石を、罪や過ちを犯した人に何の疑いもなく一斉にぶつけて批判します。その対象は日々変わり、テレビやSNSではエンターテイメントのようになどどこか楽しんでいるようにすら感じます。つまりはみんな他人事なのです。

私達は自分だけは正しい道から外れたりしないと思っけています。が、そのような確約はどこにもないし、それは「いつか死ぬかもしれないけど今日明日ではない」というものと同じような気もします。想像してみても、リアルではありません。「その時」が来るまで、私達はどこまでも他人事なのでしよう。

自分の行いも命も、一つの縁でどうなるのかわからない、まるで薄氷の上を歩くようなこの人生ですが、それは今日の前にいる人も同じこと。何の救いにもならない石つづてより、ままたらない自分自身の愚かさを知るべきだと思っこの頃です。

(浄泉寺若坊守・釋尼彌名)

お内仏(仏壇)に座る ⑰ ～「報恩講」ってなんなん?(2)～

報恩講は、宗祖・親鸞聖人の御祥月命日(11月28日)を中心に勤まる法要です。前回このコーナーで紹介した私たちの本山・真宗本廟(東本願寺)では、11月28日を御満座として七昼夜に渡って報恩講が勤まります。その最後には、巻頭に掲載した『恩徳讃』が声高らかに響き渡ります。「ほねをくだきても謝すべし」とは、私を私として照らし出してくださる仏様のはたらきへの、命のすべてを投げ出して感謝してもなお感謝し尽くせないことを表す言葉であるのだと思います。

一方、報恩講の翌朝には、日常の生活に戻ったところで「お浚へ」と呼ばれるお朝事(朝のお勤め)が勤まります。そこでは、「仏智の不思議をうたがいて 自力の称念このむゆえ 辺地懈慢にとどまりて 仏恩報ずるこころなし」([意識] あるがまを教えてくださる仏様のはたらきを疑って、私の人生を自分の手柄としようとするあり方から離れられず、良い悪いを超えたまるごとの私という存在を教えてくださる仏様のはたらきに、私の方から頭が下がることは決してない)という親鸞

聖人が作られた和讃が勤められます。ここに「我えよければ」と、次から次へとこの身に沸き起こる欲を決して離れることのできない私の姿が教えられているように思います。

仏教は、何が起こるやらわからぬ明日の安心のための自己都合の祈りや、転ばぬ先の杖ではなく、確かな今に転んで、事実は事実のままに引き受けて生きていく道を照らし出してください。仏教は、生活の中でこそ聞こえてくるのです。

人間を決して誤魔化さずに歩まれた親鸞聖人を偲び、私自身の「今」を確かめる、年に一度の報恩講です。(浄泉寺若院・釋亜世)

令和2年(2020年)年忌表

ご法事(年忌法要)は、亡き人をご縁に、仏さまの教えを、今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	平成31 令和元年(2019年) 亡
三回忌	平成30年(2018年) 亡
七回忌	平成26年(2014年) 亡
十三回忌	平成20年(2008年) 亡
十七回忌	平成16年(2004年) 亡
二十五回忌	平成8年(1996年) 亡
三十三回忌	昭和63年(1988年) 亡
五十回忌	昭和46年(1971年) 亡

<発行元・問い合わせ>



真宗大谷派 楠林山 浄泉寺 電話 0799-22-4798  
〒656-0026 洲本市栄町4-3-43  
ホームページ <http://jyosenji.asei.info>